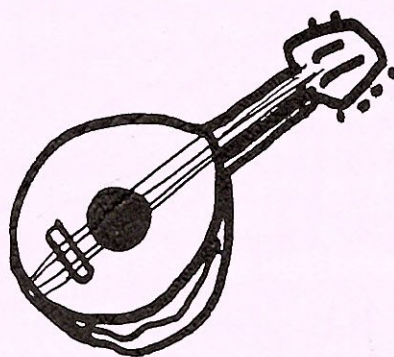


# Mandolin Concert

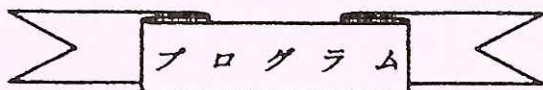
相模原マンドリン倶楽部

第18回定期演奏会



2001. 9. 29 (土) 14:00 開演

グリーンホール相模大野 大ホール



————— I 部 —————

指揮 大矢利夫

「エグモント」序曲

L. V. Beethoven  
編曲 綾部茂樹

独創的奇想曲「熱情」

G. Branzoli

「カルメン」組曲

G. Bizet  
編曲 鈴木静一

前奏曲  
アラゴネーズ  
間奏曲  
アルカラの竜騎兵  
終曲—闘牛士

————— II 部 —————

指揮 小林淳子

弦楽合奏の為のセレナード  
ハ長調 作品48

P. Tschaikowsky  
編曲 飯塚幹夫

- I Pezzo in forma di Sonatina
- II Valse
- III Elegia
- IV Finale(Thema Russo)

【 曲 目 解 説 】

「エグモント」序曲

ゲーテの書いた5幕の悲劇「エグモント」は、16世紀のオランダ独立運動の指導者エグモント伯爵の悲劇的な生涯を描いたもので、ベートーベン(1770~1827)がこの劇のために音楽を書いた。この音楽は、序曲を含めた10曲からなるが、序曲はすぐれているので、しばしば演奏される。この序曲は、悲劇的序奏をもったソナタ形式で、主部に入ってあらわれる2つの主題は、剛毅な反面、優しい愛情を持ったエグモント伯爵の性格を巧みに表現している。

独創的奇想曲「熱情」

作者ブランツォーリ(1848~1909)は、イタリアのボロニア近くのセントに生まれ、ムニエルらと共にマンドリン音楽の創始時代の先駆者として知られている。この作品は、最初二つのマンドリンとピアノの形で書かれたようである。後にマンドリンオーケストラ用に書き換えられた。代表作「望まれし日」より後の作品であるが、思慕、抒情、対話の応酬、愉悦、哀愁が素直に表現されており、しばしば演奏される。



## 「カルメン」組曲

本組曲は、ビゼー（1838～75）の歌劇「カルメン」全四幕の前奏曲を集めたものである。

- (1) 前奏曲：第一幕の前奏曲で、不気味な重苦しい旋律は『運命の動機』と呼ばれており、主人公カルメンの悲劇的結末を予言している。この旋律は、イスラム教国の伝説の中にある『悪魔の歌』の旋律からヒントを得たものと言われている。
- (2) アラゴネーズ：第四幕の間奏曲で、華やかな8分の3拍子の舞曲をもち、その旋律はスペインのアンダルシア地方の民族舞曲から採ったものと言われている。終幕の賜やかな気分が出ている。
- (3) 間奏曲：第三幕の間奏曲で、非常に牧歌的な音楽で、初めは『アルルの女』のために書かれた曲であるという。
- (4) アルカラの竜騎兵：第二幕の間奏曲で、劇中ドン・ホセがカルメンに逢いに行く時に口ずさむ歌の旋律が使われている。旋律は印象的で、陽気であり、一抹の哀愁を帯びている。
- (5) 終曲（闘牛士）：第一幕の前奏曲で、賜やかで熱狂的な曲。この激しい旋律は、第四幕中の闘牛士の行進の音楽である。三部形式で、途中に第二幕中の有名な『闘牛士の歌』の旋律を含み、再び賜やかな音楽になり、最高潮に達し終わる。

## 弦楽合奏の為のセレナーデ ハ長調 作品 48

チャイコフスキーは1840年、ロシア・ウラル地方の鉱山技師の家庭に生まれた。彼は幼い頃から音楽に熱心であったが、1850年ペテルブルグの法律学校に入学、59年卒業後は法務省の官吏となった。しかし、音楽への思いを断ち切れず、61年ペテルブルグ音楽院に入学し、本格的に音楽の勉強を始めた。音楽院卒業後はモスクワ音楽院教授に招かれると共に作曲活動を始め、交響曲、室内楽、バレエ音楽など美しく、魅力的な曲を多数残した。

本日演奏する弦楽セレナーデは、1880年作曲者40歳の時の作品である。この時期チャイコフスキーは、妹の嫁ぎ先であるウクライナ地方のダヴィドフ家に滞在しており、その間、彼は二曲の大曲を手掛けた。一曲は祝典に演奏する為に依頼され、愛国心を表明する為に半ば義務的に書いた作品「序曲1812年」、もう一曲は作曲者自らの内面的な衝動に駆られ、情熱を込めて自発的に書き上げられた作品「弦楽セレナーデ」である。それぞれ創作意欲・経緯は異なったにもかかわらず、奇しくも後世に名を残す名曲となった。

弦楽セレナーデは4楽章から成り、1881年10月ペテルブルグで初演された。その時、大変な好評を博し第2楽章の円舞曲がアンコールされたという記録が残っている。第1楽章はソナチネ形式で構成され、第2楽章はヨハン・シュトラウス風のウイナナーワルツの優美さと、華麗なフランス風ワルツの要素を兼ね備え、さらにチャイコフスキー独特のセンチメンタリズムもある洗練された曲想となっている。第3楽章は感傷的な主題を持ち、叙情性豊かなメロディーを各楽器がたつぷりと歌い上げる。第4楽章はロシア民謡「牧場にて」のメロディーで始まり、「青いりんごの木の下で」という民謡をモチーフにした快活なロンドの主題が駆け巡り、第1楽章の序奏である、あの印象的な主題が再現され、最後はロンドの主題で全曲を閉じている。

普通セレナーデは、歌曲の場合、小夜曲と呼ばれ、恋人の窓辺で歌うものとされていた。もともと serenata はラテン語の serenus（明るい）またはイタリア語の al sereno（野外で）から出た言葉である。つまり室内ではなく、街頭や野外で演奏する喜遊曲を意味している。18世紀以降は器楽曲にもこの名称が使われるようになり、いくつかの舞曲や喜遊曲を組み合わせた一種の組曲をセレナーデと呼ぶようになった。

# 出演者

◎ 首席奏者  
○ 副首席奏者

## Conductor

大矢 利夫      小林 淳子

## 1st Mandolin

藍沢 桃子      石本 友子      川崎 紘子      ◎窪田 成子  
戸田 節子      仁尾 真理      濱地 すぎの      樋口 忠雄  
舟田 徳穂      木田 絹子      ○山崎 了三

## 2nd Mandolin

饗庭 裕子      綾部 文子      ○池田 百合子      城戸 かほる  
野沢 孝広      ◎福谷 隆治      藤枝 春代      古田 栄治  
本田 博子      吉野 昌重      渡辺 礼子

## Mandola Tenore

○井上 昌子      大熊 友子      岡林 誠士      ◎寺田 美千代  
長澤 直子      笛木 和美      水野 和則      峯田 福代  
宮下 和子      森 順子

## Mandolon Cello

飯田 正男      市川 久美子      大矢 利夫      金澤 葉子  
小林 淳子      中井 顕成      錦戸 民子

## Guitar

池上 由子      石本 久博      ○田中 厚子      長沢 久美  
新田 美佐子      原田 治      ◎宮本 紀子

## Mandolone

◎宮本 皓永

## Contra Bass

◎鈴木 保彦      錦戸 雅子

## Piano

金澤 葉子

## Flute

浅川 光美 (賛助)

## Percussion

樋口 忠雄

## アナウンス

大矢 和子 (賛助)

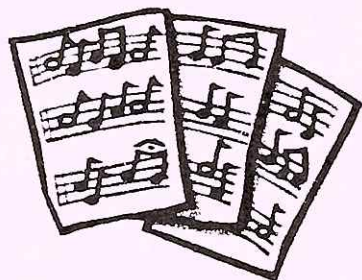
## ステージマネージャー

宮本 皓永

サブ      //

水野 和則

柳生 秀人





—— ご 挨拶 ——

本日はご来場いただきまして誠にありがとうございます。私どもクラブは、今日ここに第18回定期演奏会を開催する運びとなりました。光陰矢の如し、1977年3月の第1回からは、24年を経過しております。部員数も50名を超え、ひと桁の時代がウソのように思えます。これもひとえに本日ご来場の方々のご声援と激励の賜物と感謝申し上げます。新世紀初年の演奏会を迎え、これをクラブ成長のひとつの通過点と位置づけております。今までの集大成としてそれにふさわしい楽曲、そして「ちょっと勉強もできたらいいな」も加えた選曲をしました。

今回も「わ(和、話、輪、吾)」を中心とした心地よいハーモニーと連帯感を持った演奏でご来場の皆さまと共に楽しみたいと練習を続けてまいりました。どうぞ、ゆったりした気分で最後までお付き合いください。私どもはいつまでも皆さまに親しんでいただけるマンドリンオーケストラであるよう、これからも努力を続けてまいります。

相模原マンドリン倶楽部

部長 宮本 皓永

—— 活動レポート ——

2000年

5月20日(土) 第17回定期演奏会  
(相模原市グリーンホール相模大野)

11月18日(土) サンエール土曜コンサート  
(相模原市サンエールさがみはら)

2001年

4月22日(日) 神奈川マンドリンフェスティバル  
(横浜市栄区公会堂)

7月21日(土) 合宿 第18回定期演奏会に向けて  
22日(日) (厚木市飯山UJ研修センター)

8月11日(土) 大正寺コンサート  
12日(日) (富士吉田市)



---

相模原マンドリン倶楽部連絡先

宮本 皓永

飯田 正男

---